普及現地情報

発信年月日：令和５年（2023年）10月24日
所　属　名：高島農産普及課
番　　号：H23011
部 門 分 類：120
発 信 者 名：小嶋俊彦、三木幸次、中橋富久

高島地域で麦の栽培研修会を開催

高島地域では、土地利用型農業者の経営改善に向け、令和元年から関係機関と連携して麦の栽培を推進しています。今年も JA レーク滋賀の今津営農経済センター（9 月 26 日）と安曇川営農経済センター（10 月 10 日）の２会場で、麦の栽培研修会を開催し、延べ 64 名の農業者および関係機関の参加がありました。

高島地域は、湿田が多く、秋の「しぐれ」や冬の「積雪」のため、これまで麦の栽培は盛んではありませんでした。しかし、近年の米価低迷と急激的な経営面積の拡大により、水稲作農業者の経営が悪化したことから、水田をフル活用し収益性の高い経営を実現するために関係機関と連携して麦作を推進しています。

研修会では、全農から「麦の情勢」、JA レーク滋賀から「前年の栽培実績と実証ほの結果」、そして当課は「びわほなみの特性」と「栽培技術」について説明しました。農業者からは、「担い手にとっては、単収と品質は経営に直結する。単収については個人の努力で何とかなるが、品質は地域で評価されるため、みんなで取り組む必要がある。本年産の状況を踏まえて何をすべきか全員に周知してほしい。」という意見が聞かれました。

令和 5 年産の「ファイバースノウ」では、容積重が低く硝子率が高いことが課題です。容積重については、倒伏や刈り遅れの影響が大きく、硝子率は生育後半の窒素過多が原因と考えられるため、緩効性肥料を含んだ基肥を減らし、追肥は 2 月下旬から 2 月 10 日頃に早める指導を行いました。

令和 5 年播きでは、新規 9 経営体を含む 51 経営体が 222ha（「ファイバースノウ」164ha、「びわほなみ」58ha）で栽培を予定されており、令和 2 年播き 100ha と比較すると 3 年間で 2 倍以上に増加しました。

今後も、関係機関と連携して麦の単収と品質の向上、作付面積の拡大に取り組みます。

9月26日の研修会風景

10月10日の研修会風景